

行政調査報告書「戦略的モビリティマネジメント特別委員会」

令和元年11月18日～20日

■栃木県宇都宮市『LRTとまちづくりについて』

宇都宮市はLRT（次世代型路面電車）とバス路線を振り分け、公共交通空白地域の解消や拠点間の連携強化等を図っている。

高齢になっても移動しやすいまちにすることで外出機会の増加などにより経済の停滞も防ぐ。

宇都宮市より人口が少ない本市では、導入には調査研究が必要だと感じた。



■オガール（岩手県紫波町）『オガールプロジェクトについて』



このプロジェクトは紫波中央駅前都市整備事業である。役場の他に官民複合施設、図書館、保育園、エネルギーステーション、広場が整備されている。

住民が必要とする施設機能を有していながら、民間部門は採算を確保した運営ができており、本市においても公民連携をより推進すべきと考える。

■淡路エリアマネジメント（東京都千代田区）『ワテラスについて』

神田淡路町の再開発で整備されたコミュニティ施設や広場等を用いて住民、企業、学生などが交流を深められる仕組みを作り、地域交流を推進していた。

エリアマネジメントをリニア中央新幹線開業によりますます重要になる三河安城駅エリアで導入すべきと感じた。

